

学園 NEWS **手から手へ教わる「いいたて学」
1年生の「だんごさし」**

1月13日、「いいたて希望の里学園」の1年生が、飯館村老人クラブ連合会の皆さんと、「だんごさし」を行いました。

ふるさとを学び発信する「いいたて学」の授業の一環です。子ども達は、豊作を願う年中行事としての意味も教わりながら、かわいらしい手で丸めた団子を、大きな鍋でゆで、ミズキの枝に挿していきました。

作業中は、「耳たぶくらいの



柔らかさが丁度いいんだよ」「昔はこれを囲炉裏に入れて焼いて食べたんだよ」など、祖父母が孫に語るような、自然なやりとりが続きました。1年生は、最後まで丁寧に仕上げた「だんごさし」の出来栄に、満足そうな笑顔。そのうれしそうな表情を見ながら、細杉今朝代さん（前田）は、「こうした行事は途絶えないよう伝えていきたいですね」と話していました。

だんごさし 小正月の行事。「だんごの木（ミズキ／ミズノキ）」に米粉で作った団子を挿し、神棚の前や大黒柱などに吊るします。団子と一緒に、縁起のよい鶴亀や米俵、小判、蘭玉などの飾りもつけて、その年の五穀豊穡を願います。

学園 NEWS **中学生の活躍をたたえて
ふくしま駅伝 敢闘賞**



練習を重ねて出場しチームの受賞に貢献しました。左から高橋隆聖さん、高橋大和さん、杉岡佳朋さん

12月23日、ふくしま駅伝に出場した3人の選手、「いいたて希望の里学園」の高橋隆聖さん（9年）、高橋大和さん（9年）、杉岡佳朋さん（8年）に、改めて敢闘賞が贈られました。

11月15日に開催された第32回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）で、敢闘賞を受賞した飯館村チーム。その快挙の裏には、「いいたて希望の里学園」陸上部の活躍がありました。学園を訪れた藤井彦生涯学習課長が、3人に敢闘賞のメダルを贈り、チームへの貢献を称えました。

新教科「いいたて学」

「いいたて学」は、「いいたて希望の里学園」にしかない新しい教科です。1年生から9年生まで、全学年の児童生徒が、系統的に、「ふるさといいたて」について学んでいます。

歴史や伝統、農業産業や食文化など、さまざまな内容を学



ぶ中で、子ども達が、村民から直接話を聞いたり、村民と共に活動したりする機会があります。「村の人と一緒に活動できるのが楽しい」「もっとふるさとのことが知りたい」と、子ども達は触れ合いを楽しみ、交流を通じて心も育んでいます。

伝統芸能や特産品について地域の方から学んだり、ホストタウン活動を通じてふるさとを発信したり、幅広い内容を展開しています

いいたて希望の里学園

義務教育学校のメリットを生かす教育活動をレポートします



いいたて希望の里学園では、小学校の6年間にあたる課程を「前期課程」、中学校3年間にあたる課程を「後期課程」と呼んでいます。

普段の子ども達
のようすはHPで



いいたて希望の里学園



までいの里のこども園

**スクールバスを
便利に安全に**

昨年11月より、スクールバスの現在地を保護者がスマートフォンから確認できるシステムを導入しています。GPS（人口衛星）による測位システムでバスの位置を捕捉し、専用サイトに表示するもので、登録したバスの現在地をリアルタイムでご確認いただけるようになっています。

また現在、感染症対策として、スクールバス内では「離れて座る」「会話を控える」などの指導を徹底しています。安全なバス通学への取り組みに、ご理解とご協力をお願いします。



※画面イメージ